

令和3年度 城山西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重」の教育を基礎とし，知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で，思いやりのある豊かな心を持ち，確かな学力を身に付けた社会の一員としてたくましく生きる児童を育成する。

- 情操豊かで，思いやりのある子ども（やさしく）
- 自ら学び，よく考える子ども（かしこく）
- 健康で，やりぬく子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

平成17年度より小規模特認校に指定され，特色ある教育活動を推進してきた結果，学校統廃合の危機を脱することができ，伝統ある学校として存続している。また，平成27年度の小規模特認校10周年を機に，「小規模特認校 第2ステージ ～新たな学校の創造～」の取り組みを展開している。

今後，本校がさらに発展していくためには，縦軸（人材育成と伝統の再構築）の視座に立った協働の展開と横軸（確かな教育活動と市内へのPR）の視座に立った教育活動の展開が不可欠となる。PDCAサイクルを活かしながら活動の展開と改善を重ね，立体的な発展を遂げていきたい。

前述を踏まえ，「小さな学校だからこそできること」をコンセプトとした本校の特色ある教育活動を推進し，今年度より，特に以下の二点に力点を置きながら，「魅力あふれる学校」を創り上げる。

- (1) 「未来を創る」をキーワードに，使命感と愛情をもった教職員の教育力の向上，縦割り班活動を核とした兄弟のような児童同士のつながりの強化，学校・保護者・地域の協働による信頼関係の構築に努める。（人材育成と伝統の再構築）
- (2) 「確かな力」をキーワードに，知・徳・体のバランスのとれた力を育む。また，活動の様子や成果を学校日よりやホームページ，ポスター等で市内に広く周知していく。（確かな教育活動と市内へのPR）
そして，107人全員の笑顔輝く城山西小学校を目指すとともに，本校を希望して入学する児童数の維持・拡大に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校・地域・行政が一体となった「新たな学校の創造」を推進するため，教職員の適材適所を図り，本校の実情に即した教育課程の編成と実践に努める。また，教育者としての使命感と愛情をもった教師力の向上に努めるとともに，業務の効率化を図り，労働時間の適正化に努める。（学校運営の適正化）
- (2) 児童一人一人のよさを認め励まし，自己肯定感を育み，居がいのある学校・学級づくりに努める。（学級経営の充実）
- (3) 道徳科の授業の充実に努めるとともに，地域のよさを生かした体験的な学習や読書指導，縦割り班（なかよしグループ）活動の活性化により，他人を思いやる心豊かでたくましい児童を育む。（豊かな心の育成）
- (4) 学力の基礎・基本の定着を図り，それらを活用する力を育成するとともに，体験的な学習や問題解決的な学習を通して，学ぶことの楽しさや成就感を体得させ，自ら学び自ら考える力の育成に努める。（学習指導の充実）
- (5) 進んで運動に親しみ継続できるような手立てを工夫するとともに，保健・安全指導の充実に努める。（体力向上と保健安全教育の充実）
- (6) 学校・家庭・地域・行政と連携を密にしながら，小規模特認校として魅力ある開かれた学校づくりに努める。（魅力ある学校づくりの推進）

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び同施行規則，小学校学習指導要領，栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」宇都宮市の教育の指針（うつのみや“いきいき学校”プラン-子どもに夢，学校に活力，地域に絆-第2次宇都宮市学校教育スタンダード・宇都宮元気っこプロジェクト）等の示すところに従い，公教育の立場を堅持し本校の教育目標達成のため，調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 児童の生きる力を育むこと・成長するための基盤を培うことを目指し，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させること，問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力を育むことの双方のバランスを考慮して教育課程を編成する。また，家庭での学習習慣が確立できるように家庭との連携を密に図るようにする。
- (3) 道徳性の育成は，「特別の教科道徳」を要として学校教育活動全体を通して行うとともに，家庭・地域社会との連携を

深め、児童の発達段階に考慮して適切な指導が行われるよう、教育課程を編成する。また、指導にあたっては「いきいき栃木っ子3あい運動」や「宮っ子の誓い」を通して道徳性が培えるよう工夫する。

- (4) 健やかな心身の育成を図るために、体育・健康に関する指導または学校教育活動全体を通して行うとともに、健康・安全で活力ある生活を営むために必要な資質や能力を育て、児童の心身の調和的な発達が図れるよう教育課程を編成する。
- (5) 創立146年の歴史と伝統と小規模特認校17周年を迎える実績と特色を踏まえ、児童の実態や学校の特色、地域のもつ豊かな教育力を生かして、家庭や地域社会との連携を図りながら、学校の特色を生かした教育課程を編成する。
- (6) 保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深め、連携及び協力が推進できるように学校運営の状況に関する情報を提供するように努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・全職員による指導体制を確立し、報告・連絡・相談の励行に努める。
- ・多様な専門スタッフとの連携によるチーム力の向上を図る。
- 小中一貫教育を充実・継続し、義務教育9年間を見据えた教育活動に努める。
- 業務を効率化し、労働時間の適正化を図る。

【 学 習 指 導 】

- ・道徳科の授業を柱とした豊かな心を育む教育の推進
- ・コミュニケーション力と表現力を高める教育

【 児 童 指 導 】

- 自己有用感、自他のよさを認め合う児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・運動技能や体力の向上、望ましい生活習慣や食習慣、安全に配慮した行動など、自己を管理できる児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に話をしっかり聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 「城西小よいこの一日学習編」をもとに、基本的な学習態度について共通理解を図りながら指導に当たる。 ② 児童の主體的な学びとなる授業展開を工夫する。 ③ 会話科の授業を充実させ、よく聴き分かりやすく発表する技能を高める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.6% 保護者の肯定的回答 93.3% 教職員の肯定的回答 100% 【次年度の方針】 ・「城西小よいこの一日学習編」をもとに、視覚資料を提示し、保護者や児童・教職員が共通理解をはかりながら指導にあたる。
	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%	① 道徳の時間の指導を要とし、各教科領域、特に児童指導との連携をとりながら、教職員が共通理解のもとに足並みをそろえて児童の規範意識を高めていく。 ② 縦割り班での活動や共遊の時間を大切に、児童同士あるいは児童と教師が豊かな心のふれあいができるようにする。 ③ 会話科（ことばの時間）等の学習を	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 95.8% 保護者の肯定的回答 91.5% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100% ・親切や思いやりをテーマにした道徳の授業作りを校内研究として行った。 ・日常生活の中で児童へ思いやりの心の大切さを伝えてきた。 ・コロナ禍においても様々な行事や活動を工夫して実施することで児童同士が豊かな心のふれあいを感じる体験を積み重ねること

<p>す 児 童 の 姿</p> <p>以上</p>	<p>通して、コミュニケーション力を高め、互いの気持ちを伝えられるようにする。</p> <p>④ 盲学校との交流を継続し、心のふれあいを通して、障がいに対する理解が深められるようにする。</p>	<p>ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盲学校との交流では、昨年度に引き続き、ビデオレターのやり取りを通して、障害に対して理解を深めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も道徳の授業を中心にしながら、学校教育全体で思いやりの心を育てていく。 ・コロナの感染状況を見ながら縦割り班活動や盲学校との交流活動を工夫して実施する。 								
<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「城西小よい子の一日」を見直し、教職員が足並みをそろえて、粘り強く児童を指導していく。</p> <p>② 児童が秩序ある安全な学校生活を送れるように、年間を通して学級の行動目標を決めて指導していく。</p> <p>④ 学級だけでなく集会・朝会等の場を活用して、児童のよさを学校全体でほめることで、きまりを守る大切さを理解させ、やる気を引き出していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童の肯定的回答</td><td>92.6%</td></tr> <tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>95.8%</td></tr> <tr><td>地域の肯定的回答</td><td>100%</td></tr> <tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>100%</td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も「城西小よい子の一日」については周知徹底していくとともに、細かいルールについてはその都度教職員で共通理解を図り一貫性のある指導ができるようにする。 ・全体の間では良い点を褒めることに重点を置きながら、指導の徹底を図る。 	児童の肯定的回答	92.6%	保護者の肯定的回答	95.8%	地域の肯定的回答	100%	教職員の肯定的回答	100%
児童の肯定的回答	92.6%									
保護者の肯定的回答	95.8%									
地域の肯定的回答	100%									
教職員の肯定的回答	100%									
<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「いつでも・どこでも・だれにでもさわやかあいさつ」の合言葉のもと、児童会を中心に城山地域学校園で連携したあいさつ運動を継続する。</p> <p>② 登校指導の場では学校・地域・保護者で連携を図り、子供たちが気持ちよくあいさつができる環境を整え、広げていく。</p> <p>③ 定期的に家庭でのあいさつ状況を振り返らせ、家族とのあいさつの大切さを伝えていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童の肯定的回答</td><td>94.7%</td></tr> <tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>83.3%</td></tr> <tr><td>地域の肯定的回答</td><td>100%</td></tr> <tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>95.0%</td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりや学校だよりなどで、あいさつ広げ隊の活動を紹介し、その大切さを周知し、家庭と連携しながらあいさつの習慣化に努める。 	児童の肯定的回答	94.7%	保護者の肯定的回答	83.3%	地域の肯定的回答	100%	教職員の肯定的回答	95.0%
児童の肯定的回答	94.7%									
保護者の肯定的回答	83.3%									
地域の肯定的回答	100%									
教職員の肯定的回答	95.0%									
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 漢字や計算、運動の検定や各大会などの教育活動を設定することで、児童が自ら目標を持って、進んで活動できるようにする。</p> <p>② 学期ごとに、学習と生活のめあてを立てて、その達成状況を学期末に振り返る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童の肯定的回答</td><td>90.5%</td></tr> <tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>86.4%</td></tr> <tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>95.0%</td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種便りや連絡帳などで、学習や生活の状況をこまめに周知し、学校での取組を保護者にも伝えていく。 	児童の肯定的回答	90.5%	保護者の肯定的回答	86.4%	教職員の肯定的回答	95.0%		
児童の肯定的回答	90.5%									
保護者の肯定的回答	86.4%									
教職員の肯定的回答	95.0%									
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>アンケートの「児童は、健</p>	<p>① 感染症予防を意識した新しい生活様式における基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>② 健康の保持増進を意識した生活を送ることができるよう、定期健康診</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童の肯定的回答</td><td>94.7%</td></tr> <tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>93.9%</td></tr> <tr><td>地域の肯定的回答</td><td>100%</td></tr> <tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>100%</td></tr> </table> <p>【次年度の方針】</p>	児童の肯定的回答	94.7%	保護者の肯定的回答	93.9%	地域の肯定的回答	100%	教職員の肯定的回答	100%
児童の肯定的回答	94.7%									
保護者の肯定的回答	93.9%									
地域の肯定的回答	100%									
教職員の肯定的回答	100%									

<p>康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>断の結果を生かした指導や、バランスのとれた食事についてなど具体的な指導に努める。 ③ 避難訓練や交通安全教室などを計画的に実施し、安全を意識した生活ができるようにしていく。</p>	<p>・生活習慣チェックを活用し、基本的な生活習慣の定着と、感染症予防に努める。 ・健康診断の結果から、バランスのとれた食事についての指導が必要な児童には、保護者宛に資料を配布し、実践につながるようにする。</p>
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。 【数値指標】 アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① キャリア教育を中心に、学校の教育活動全体で、自分の夢や目標をもちそれに向かって努力する大切さや喜びを実感できるようにする。 ② 文化人の先生や地域の方、保護者との多様ななかかわりを通して、他者と協力・協働していくことよきに気付かせ、社会に参画していこうとする心を育てる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 90.5% 保護者の肯定的回答 86.4% 教職員の肯定的回答 95.0%</p> <p>【次年度の方針】 ・キャリアパスポートの活用により、自分の夢や目標を学年に応じて捉えられるよう指導する。 ・キャリアパスポートを定期的に保護者に提示することで、児童の夢や目標に対する思いを共有する。</p>
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業を中心に、英語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるよう、指導を充実させる。 ② 英会話タイムの充実を目指し、年に数回校内研修を行い、教職員の指導力の向上に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 90.5% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・高学年の教科書の内容も加味しながら、本校ならではの英語に特化した年間指導計画を検討・作成していく。 ・英会話タイム・授業の充実を目指し、来年度も定期的に校内研修を実施する。 ・生活の場で英語にふれられる機会を増やすため、AETによる校内放送の充実を図る。</p>
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 社会科を中心に生活科や総合的な学習の時間に、宇都宮市や城山地域の、地理や産業・文化財などについて学ぶ機会を充実させる。 ② 宇都宮学の副読本を活用して家庭とも連携しながら、自分たちの住んでいる地域や、宇都宮のよさを実感できるように指導していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 90.5% 保護者の肯定的回答 78.6% 教職員の肯定的回答 90.0%</p> <p>・昨年度より保護者と児童の肯定割合が上がったが、目標の肯定的回答割合には達していなかった。また、低学年の割合は低い傾向にあるため、低学年への重点的な指導が必要である。</p> <p>【次年度の方針】 ・「宇都宮学」を中心に、家庭と連携しながら、宇都宮のよさを実感できるように指導していくとともに、児童一人一人が、具体的な宇都宮の良さを言えるようにする。</p>
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 調べ学習や発展的な内容の学習の時間において、ICT機器や図書資料を有効に活用した活動ができるよう、指導を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 93.7% 保護者の肯定的回答 91.8% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・児童自身が個人用パソコンや実物投影機を操作しての活動を、授業参観等の場面で保護者にも見せることで、授業でのICT機器の活用状況を知らせる機会にする。</p>

	<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 年間を通して、地域の「古ざくら会」との農園活動・昔遊び・地域合同行事等を通して高齢者との交流を深める。</p> <p>② 各活動の後の振り返りを大切にし、協力してくださった方を想起させ感謝の気持ちや、いたわりの気持ちを育むようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 95.8% 保護者の肯定的回答 91.5% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100% ・今年度も高齢者との交流行事が難しい状況であったが、古ざくら会や地域の方に協力していただきながら農園活動や田植え、稲刈りを行うことができた。 ・道徳の授業や人権月間等で様々な立場にたって物事を考え、支え合う大切さについて指導を行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、桜祭り、運動会等の行事や「古ざくら会」との農園活動、昔遊び、ふれあい給食などの交流活動を充実させたい。</p>
	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 日々自分たちが行っている、ごみの分別・リサイクル・節電・節水や、PTA資源回収などの活動が、身の回りだけでなく地球環境の維持につながっていることを意識させる。</p> <p>② 古賀志山清掃登山や裏山探検などを理科や社会、総合の授業と、関連させて、身近な自然を実感させ、自然の大切さを意識できるような教育活動を展開していく。</p> <p>③ 本校は土砂災害警戒区域内にあることを意識させ避難訓練などで指導を継続していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 90.5% 教職員の肯定的回答 80.0% ・今年度の取り組みとして、5・6年を対象に外部からの講師を招き、生ごみから土づくりを行い、野菜を育て、給食で食することを試みた。全校児童・全職員での落ち葉拾いなど様々な活動を行ってきた。児童も一人一人一生懸命活動することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・各学年の教科、及び領域において使われている教材を活用し、児童の発達段階に応じて指導をしていく。</p>
	<p>B1 体力の向上を目指し、進んで活動している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が水泳検定や縄跳び検定等の体力づくりに向けて努力するよう指導を工夫している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 水泳検定、縄跳び検定および、縄跳び大会を実施することで、児童が自らの体力向上を目指し、目標を持って、進んで活動できるようにする。</p> <p>② うつのみや元気っ子プロジェクトミニマム達成に向けて運動プログラム集を活用する。</p> <p>③ 本校の課題である「投力」を向上できるように、サーキットトレーニング等を通して投力、さらには体力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 86.3% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き各種検定への取組や、全校児童による縄跳び大会を実施することで、目標に向かって努力する大切さを指導していく。 ・本校の課題である「投力」の向上に向け、年間を通して指導しながら、投力の向上を図っていく。投力向上を目指して作成した教材をもとに、児童が意欲的に取り組んでいけるような企画を計画・運営していく。</p>
<p>目指す学校の</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 特別な支援が必要な児童の実態把握と、校内支援委員会やケース会議、情報交換会などを通じた情報の共有に努め、職員間で連携を図って適切な支援を行う。</p> <p>② 必要に応じて、SCやSSC、教育センター、病院、市役所等、各関係機関と連携し、適切な支援を行う。</p> <p>③ 家庭と密にコミュニケーションを図ることで信頼関係を築き、協力して支援・指導を行っていく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% ・年間3回の校内教育支援委員会で共通理解を図るとともに、日常的に職員間で連携を図り適切な支援を行うことができた。 ・個人懇談の他にも送迎時等、保護者と連絡を密にとり、保護者と同一方向で支援・指導を行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も全職員で児童の実態把握と共通理解に努めながら、特別な支援が必要な児童が安心して学校生活を送れるように努める。</p>

<p>姿 A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 児童集会等でいじめは絶対許されないことであるという指導を行う。</p> <p>② 教育相談やアンケートを実施し、いじめの起こらない環境づくりを推進する。</p> <p>③ 児童の些細な変化を見逃さないように教職員間で情報を共有し指導にあたるようにする。</p> <p>④ 学校だより等各種たより及び学級懇談会等を活用し、いじめアンケートの結果など、本校のいじめ防止の取組について情報を発信するとともに、各家庭と積極的に児童の様子などを情報交換する。</p> <p>⑤ 生活目標や学校のきまりなどで、いじめ防止を強調した合言葉を作り児童へ周知する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 96.8% 保護者の肯定的回答 75.6% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・いじめ根絶集会では、児童に紹介する本を司書教諭と協力しながら、より児童の実態に合ったものを選ぶ。 ・児童の学校での様子、些細な行動の変化、気になる表情など、教職員間だけでなく家庭とも連絡を密に取りながら情報を共有することで、いじめの防止、早期発見につなげていく。 ・児童が「いじめをしない」と、強く意識できるような合言葉を作り、家庭とも共有しながら指導にあたる。 ・教職員の共通理解のもと、「自分がされていやなことは、人にしない・言わない」を児童に浸透させていく。</p>
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学級・児童に関する情報交換会を職員会議後に開き、全教職員で情報を共有し、対応について共通理解を図る。</p> <p>② 児童が活躍できる場の設定や、努力やよさを認め励ます教育を推進する。</p> <p>③ 欠席児童に対する、電話連絡や家庭訪問など欠席が長期化しないように、初期対応を徹底する。</p> <p>④ 教育相談や個人懇談で得た情報は詳しく記録に残し、児童理解のために有効に活用していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 94.7% 保護者の肯定的回答 89.1% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>・全教職員で情報交換を行うことで児童理解が深まり、共通理解したことをそれぞれ学級経営に生かすことができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・①～③の取組を継続して確実に実施し、学級経営に生かしていく。</p>
<p>A16 教職員は、外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 定期的に指導連絡会や校内支援委員会を開催し、全職員が特別な支援を必要とする児童に対する共通認識をもち、同じ方向性で指導・支援を行う。</p> <p>② 必要に応じて、日本語指導を行い、学校生活への適応を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>・各関係機関と連携し、児童や保護者の実態を把握することで、特別な支援を必要とする児童等に適切な支援をすることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・本年度に引き続き、各関係機関と連携し、児童や保護者の実態を把握するようにしていき、児童の実態に応じた適切な支援ができるように努める。</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・地域・教</p>	<p>① 学校生活において、一人一人が生き生きと達成感を実感できるような活動の場を意図的に設け、自己肯定感の向上を図る。</p> <p>② 学校生活の様々な場面で縦割りによる交流活動の時間を工夫し、活動のめあてにあった支援を加えながら異学年でのふれあいの充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 92.6% 保護者の肯定的回答 89.6% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>・今年度は縦割り班活動が難しく、異学年でのふれあいは例年に比べ減ってしまった。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も、異学年でのふれあい活動や、達成感を実感できるような活動の場を設け、自己肯定感の向上に努める。</p>

<p>職員の肯定的回答 85%以上</p> <p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなどきめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上</p> <p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p> <p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p> <p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。」 ⇒児童(5・6年)・保護者・地域・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学習のめあてや振り返りを大切に扱い、一人一人が分かる授業を実現する。</p> <p>② 少人数のよさを生かし、一人一人のつまずきに応じた個別指導を行うとともに、習熟度別学習、TT、かがやきルームの活用など学習形態を工夫し、一人一人を大切にされた指導に努める。</p> <p>③ 学期ごとにまとめの月間を設定し、家庭にも周知を図って、一人一人の習熟に努める。</p> <p>① 専門的な業務において、学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら業務を進めるように努める。</p> <p>② 教職員が教育活動において役割分担などを見直し、同僚性を発揮しながら取り組めるようにする。</p> <p>① 出退勤の記録を付けることで勤務時間について意識する。</p> <p>② P D C A サイクルによる教育課程の振り返りや、学校行事の精選、反省に基づくスリム化・効率化につながる改善を図る。</p> <p>① 小中合同あいさつ運動、小中乗り入れ授業、6年生の中学校訪問など小中合同で行う取組を確実に実施し、活動の様子を各種便りやホームページで公開するよう努める。</p> <p>② 地域学校園内での各校の学校課題等の研修に積極的に参加し、協力して研修を進めていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 92.6% 保護者の肯定的回答 88.4% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も児童理解を図りながら、適切な指導及び支援が行えるよう、教職員間で連携をはかっていく。 ・学校での取組を、ホームページや学年だより、授業参観等で、保護者にも積極的に発信していく。</p> <p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% ・学校図書館司書、AET、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーと連携・協働しながら業務を進められた。 ・教職員が役割分担などを必要に応じて見直し、同僚性を発揮しながら取り組んだ。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き学校に関わる職員全員がチームとなり、より充実した教育活動を行えるように協力して業務に取り組んでいく。</p> <p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 95.0% ・P D C A サイクルによる教育課程の振り返りを行い、学校行事の精選、反省に基づくスリム化・効率化につながる改善を図れるよう情報を集め、次年度の計画に活かせるようにしている。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き教職員が勤務時間を意識して、業務に取り組んだり、効率化を図ったりできるよう取り組んでいく。</p> <p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 83.9% 保護者の肯定的回答 74.5% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100% ・コロナ禍での実施だったので、目に見える形で実施できたことは、小中合同あいさつ運動とお弁当の日、中学校からの乗り入れ授業だけだった。</p> <p>【次年度の方針】 ・限られた機会に有効な活動が行えるように、内容の検討やその他の連絡調整を行っていく。 ・引き続き地域学校園の各校の課題等の研</p>
---	--	---

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」</p> <p>⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域学校協働活動推進員を中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。</p> <p>② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の教育資源を活用した教育活動を行う。</p>	<p>修に積極的に参加し、協力して研修を進めていくようにする。</p> <p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 92.6%</p> <p>保護者の肯定的回答 89.8%</p> <p>地域の肯定的回答 100%</p> <p>教職員の肯定的回答 100%</p> <p>・今年度も地域学校協働活動推進員を中心に各種ボランティアにご協力いただき、学校のより良い教育環境づくりができた。各教科、文化人の先生方の授業などにご協力いただき、円滑に活動できた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き地域学校協働活動推進員を中心として協力いただき、教育環境や教育活動の充実を図っていく。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」</p> <p>⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 孝子桜まつり・古賀志山清掃登山・地域合同運動会などの行事を、学校・保護者・地域が連携して実施する。</p> <p>② 地域学校協働活動推進員を中心に学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深め、開かれた学校づくりに努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 92.6%</p> <p>保護者の肯定的回答 89.8%</p> <p>地域の肯定的回答 100%</p> <p>教職員の肯定的回答 100%</p> <p>・地域と一緒にを行う行事では、実行委員会や文書などの連絡を通して、学校・地域・保護者が協力し連携し合って実施してきた。</p> <p>・地域学校協働活動推進員と連絡をとり、学校を支援するボランティアを募り、様々な協力をしていただいた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・今後も継続していけるよう地域学校協働活動推進員と協力・連携し、開かれた学校づくりを推進していく。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」</p> <p>⇒保護者・地域・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 児童や利用者が安全に利用できるよう、毎月の安全点検を確実に実施し対応が必要なところは、迅速に処理する。</p> <p>② 学校施設利用者や保護者へ、来校時の安全面での注意点やAEDの設置場所の周知、災害時の避難など危機に対応できるよう情報を提供する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>保護者の肯定的回答 97.9%</p> <p>地域の肯定的回答 100%</p> <p>教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・今後も安全点検を実施するとともに、不具合に気付いた時には、迅速に対応する。</p> <p>・ホームページや各種お便り、学級懇談会等を活用し、万が一に備えた安全に関わる情報を提供する。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」</p> <p>⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 実物投影機・個人用パソコンなどのICT機器や、児童が活動で使う図書資料等を準備する。</p> <p>② ICT機器や図書資料を、授業等で児童が使用しやすくし、十分に活用できるように、情報を提供したり、校内研修を行ったりする。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 93.7%</p> <p>教職員の肯定的回答 100%</p> <p>・昨年度と同様にICT機器や実物投影機を活用した授業が多く行われた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・ICT機器や図書資料等を適切に管理するとともに、必要なものは適宜整備する。</p>
<p>B2 学校は、読書活動を積極的に推進している。</p>	<p>① 読書活動の充実を図るために、朝の読書タイムを充実させ、読み聞かせボランティア等による読み聞かせ</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答 85.3%</p> <p>保護者の肯定的回答 100%</p> <p>教職員の肯定的回答 100%</p>

	<p>【数値指標】 全体アンケートの「学校の読書は充実し、教職員は子供たちが読書に興味をもつように指導を工夫している」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>などを行う。</p> <p>② 教科や総合的な学習等、学習と関連のある図書を意識的に紹介し、様々なジャンルの本への興味づけを行う。</p> <p>③ 図書館便りを更に充実させ、読み聞かせの様子や読書活動の重要性を保護者へも知らせる。</p> <p>④ 校内の希望する児童を対象に、ピブリオバトルやアニメーションを実施し、本に親しむ機会を作る。</p>	<p>・今までは読書活動が充実していたため、コロナ禍において活動が制限されていることに、物足りなさを感じる児童もいたようである。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、様々な読書活動を展開し、児童が本に親しむ習慣をつけるよう働きかける。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B 3 日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動の年間指導計画に基づき、計画的、系統的に指導を行っていく。</p> <p>② 英会話タイムを TT 体制で内容を充実させながら継続していくとともに、外国語の授業では、やり取りを重視した、楽しい授業作りを行う。</p> <p>③ 外国語活動や外国語については、中学校へのつながりを意識した研究を進めていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.6% 教職員の肯定的回答 100% ・英会話タイムを毎日のように行ったり、外国語の校内研究を行ったりしたことで、児童の英語によるコミュニケーション能力を高めることができた。 ・コロナ禍においても、ラジオ番組作りや落語、演劇等の会話科の授業を工夫して実施し、日本語によるコミュニケーション能力を高めることができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・会話科、外国語活動、外国語科の年間指導計画を再検討していく。 ・今後も AET や TT 体制を活用しながら英会話タイムの充実を図っていく。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B 4 学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、保護者や地域住民・文化人と連携、協力した教育活動に積極的である」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校支援ボランティアの組織を充実させ、地域協議会の地域学校協働活動推進員を中心に、更に地域や保護者と連携させながら活動を展開していく。</p> <p>② 地域の自然を生かした教材のカリキュラム化を図る。地域の人々を積極的に講師として迎え入れた活動を行う。</p> <p>③ 豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 95.8% 保護者の肯定的回答 100% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100% ・地域協議会の地域学校協働活動推進員を中心に、地域や保護者と連携させながら活動を展開してきた。 ・豊かな感性を育てるため、芸術・文化の分野で活躍されている文化人の先生方による授業を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き学校と地域・文化人と連携した学校教育活動を推進していく。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B 5 給食農園へのかかわりや農業体験学習を行い、食育指導との連携を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「農業体験活動を通して、大地の恵みに感謝する心を育てると共に食育の充実を図っている。」 ⇒児童・保護者・地域・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 給食農園で地域の方との連携を深めたり、種まきから収穫まで児童が栽培に関わるように活動を充実させたりすることで、食に対する関心を高めたり、感謝の心を育成したりすることを目指す。</p> <p>② 地域の食材を積極的に利用し、安全でおいしい給食や特色ある給食を実施する。</p> <p>③ 給食の時間に、給食農園で取れた野菜や米、地域の食材を紹介することで、感謝の気持ちを育て、食農教育の充実を図る。</p> <p>④ 食育だより・給食だより・保健だよ</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答 96.8% 保護者の肯定的回答 96.2% 地域の肯定的回答 100% 教職員の肯定的回答 100% ・今年度も、交流給食や親子給食を実施することができなかった。また、本校ならではの、ランチルームでの全児童・全職員での給食も実施できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度も、交流給食やランチルームでの給食が実施できないと予想されるので、交流を図る工夫が必要だと考える。また、作ってくれる人や大地の恵みへの感謝の気持ちをもつような働きかけが必要である。</p>

		りを充実させ、保護者へも啓発していく。	
--	--	---------------------	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

総合的にみると、30項目うち25項目で数値指標を達成することができた。また、全市で共通の25項目のうち18項目で市の平均より数値が上回っており、望ましい状況である。

児童の評価では、20項目中13項目で数値目標を達成しており、児童が学校運営や学習指導を肯定的にとらえるとともに、主体的積極的に学校生活を送っているものと考えられる。

保護者の評価では、22項目のうち16項目、地域住民の評価でも、13項目全項目が数値目標を達成しており、学校の取組や児童の学習、生活状況に対して、肯定的な評価がなされている。

特に児童が評価した達成度の高い項目（達成度95%以上）として、「児童生徒は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している」「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる」の2項目が挙げられる。一人一人を大切にしたい関わりがよい評価につながっている。

保護者アンケートでは、達成度の高い項目が「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」「学校は利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」の2項目となっており、学校生活における安全・安心への取組が評価されている。また、本校独自の項目である「読書指導」や「文化人の先生方による教育活動の実践」については、100%の肯定的割合を示していることから、小規模特認校としての特色ある教育への取組を評価していただいている。

地域住民アンケートでも、児童・保護者と同様の項目をはじめ「農業体験活動を通して大地の恵みに感謝する心を育てると共に食育の充実を図っている」の項目等、13項目中全てにおいて達成度100%となっており、学校の取組を評価していただいている。

本校の重点目標である「会話科」「食農教育」「文化人の先生方との特色ある活動」の具体的な取組については、すべての項目で肯定的な評価をいただくことができた。学校の取組が保護者や地域にも理解されていると考えられる。

【次年度へ向けての取組】

今年度、肯定的回答割合が設定した数値指標に満たなかった項目、また次年度改善や充実をさせたい項目は、以下のとおりである

◇ 肯定的回答率の低かった質問項目

- 1 「児童生徒は宇都宮のよさを知っている。」（【保護者】数値目標 80% 肯定的回答率 78.6%）
 〈改善に向けた基本方針〉

保護者の回答率は、数値目標の80%に届かなかった。児童の肯定的回答率は、90.5%と他の項目と比べるとやや低いといえる。宇都宮学の学習を、社会科を中心に総合的な学習の時間や生活科などで、宇都宮市や地域について、発達段階に応じて触れたり、学んだりする機会を充実させていく。また、それを校内に掲示したり学年だより等で保護者に知らせたりし、啓発を図っていく。

◇ 昨年度に比べて肯定的回答率が下がった質問項目

- 1 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」 （【保護者】数値目標 85% 肯定的回答率 75.6%）
 〈改善に向けた基本方針〉

保護者の回答率は、昨年度より15.6ポイント下がっていた。大きく下がったことにより数値目標の80%に届かなかった。児童の肯定的回答率は、96.8%と他の項目と比べて高いことから、学校でのいじめ対策が保護者に理解されていない部分があるといえる。改善策として、教職員の共通理解のもと、「自分がされていやなことは、人にしない・言わない」を児童に浸透させていく。そのためには、いじめ対策について、保護者の協力を得ながら実施していくことが大切である。また、実践したことを保護者へ周知し、いじめゼロへの取組について理解してもらえよう啓発活動も必要になってくる。学年通信などを活用し、いじめ対策への取組を理解してもらえようしていきたい。

- 2 「学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている」 （【保護者】数値目標 80% 肯定的回答率 74.5%）

〈改善に向けた基本方針〉

保護者の肯定的回答割合が、大幅に下がった項目である。要因として考えられるのが、コロナ禍によ

る小中一貫・地域学校園の取組が実施できなかった点が挙げられる。しかし、あいさつ運動などは例年通り実施できているので保護者への周知・啓発が必要といえる。具体的な取組やその成果を懇談会や学校からの便りで知らせることで、保護者の理解を得ることが大切である。

総合的にみると、概ね数値目標を達成しているが、今年度は保護者の評価項目で昨年度よりも肯定的回答割合が下がっている項目が多くみられた。児童による評価では、昨年度同様もしくは昨年度より5ポイント以上肯定的回答割合が上がったものが5項目あったが、保護者の項目においては、昨年度よりも5ポイント以上下がった項目が6項目あった。主に学校の教育活動や教職員の支援に対する項目であるので、真摯に受け止め改善を図っていく必要がある。すでに述べたいじめへの取組、さらには学校から保護者へのきめ細かい連絡と一人一人の児童への言葉かけなどをさらに充実させ、保護者の理解を得られるよう努力していくことが必要である。

本校の重点目標である「会話科」「食農教育」「文化人の先生方との特色ある活動」の具体的な取組については、すべての項目で肯定的な評価をいただくことができた。学校の取組が保護者や地域にも理解されていると考えられる。

7 学校関係者評価

各委員から 評価項目の結果について

- ・コロナ禍の中、行事縮小や見直しなど工夫した取組が見られた。その成果がアンケート結果にも表れている。次年度へ向けては今年度の成果を生かして教育活動を進めてもらいたい。
- ・教職員の肯定的回答 100%に対して、児童・保護者の肯定的回答割合の低い項目が多く、意識のズレを感じた。学校は、次年度の方針のとおりに取り組んでいただき、保護者が学校教育を理解し、協力していくことが必要だと感じた。教職員の方々の愛情をもった指導にいつも感謝している。
- ・新型コロナウイルス感染対策に関わる学校運営については、ご苦労されていると感じ心配をしている。子供たちの安全第一を考え、安全・安心な学校を構築していくことは並大抵のことではない。学校内においては、ソーシャルディスタンスを取ることで子供たちとの触れ合いが少なくなる反面、家庭においては保護者との時間が増えるのはよいことである。
- ・コロナ禍の中での教育活動に感謝している。次年度へ向け目標をもって、さらに改善を加えてほしい。
- ・公立の小学校において、唯一無二の存在であり続けてほしい。

地域協議会と学校に関すること

- ・古賀志の孝子桜まつりが3年続けての中止となった。様々な行事が縮小方向に進んでいるので、今後地域とどのように関わっていくかが課題である。地域と学校との関係性が保たれる取組を行い、信頼関係をさらに高めていくとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

次年度へ向けて次のような方策を考えている。

- 1 「道徳科の授業」を柱とした豊かな心を育む教育の推進
 - ・道徳科の授業の充実と研修体制の確立
 - ・認め励ます教育や、縦割り活動、体験的な学習の推進
 - ・「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」活動を通した、たくましさの滋養
 - ・「いじめゼロ」の実現（教職員の共通理解のもと「自分がされていやなことは人にしない・言わない」を児童へ浸透させる）
- 2 「確かな学力」を育む教育の推進
 - ・基礎・基本の確立と定着
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の構築
 - ・外国語科・外国語活動における「新・カリキュラム」の実践と改善
- 3 「運動の日常化」と「体幹を鍛える運動の定着」による体力向上の推進

- 各種検定カードの活用や教科体育時におけるサーキットトレーニングの時間の設定、休み時間の運動の推奨
 - 妻木律子先生による「体幹を鍛える運動」の指導と定着
- 4 「地域とともにある学校」づくりの推進
- 地域協議会との連携の充実
 - 持続可能で発展的な行事内容の検討と実践
 - ※創立 150 周年（3 年後）を視野に入れながら。